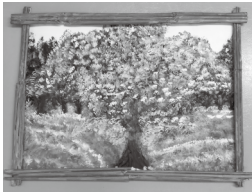


編集委員の選考会にて、来年（第54巻）のOTジャーナル表紙に選ばれた作品です。



1月号「冬」 柴谷健造

私にとって、「絵」は病気になってから始めた活動です。何がやりたいか、いろいろ探し、試しましたが、私にとっては「絵」が一番です。みんなが褒めてくれるしね（笑）。



2月号「ゆきだるまとわたし」 鈴村 遼

この作品は布を発泡スチロールの土台にきめこんで描いています。制作時、私の暮らす札幌は真冬でした。冬は障害のある人にもない人にも、長くつらい季節です。外は寒いですが、この作品を見てくださった方が、少しでも温かく、ほっこりしていただけたら嬉しいです。



3月号「粘土で和菓子作り」 米山輝雄

作者は創業約100年の和菓子店を営まれていた方です。脳梗塞で右上肢の不全麻痺になりましたが、和菓子をつくるうえで「材料・技術・心」を大切にしているとうかがい、粘土での創作活動をしていただきました。作品が完成すると恥ずかしがりながらも嬉しそうなお表情が見られました。（担当 OT：木村）



4月号「チューリップ」 本田健太

絵を描くことが好きです。そんなほかに OT の先生が「応募したら？」とおはなしをくれました。色を決めて、ちぎって貼って、ちぎって貼って、どんどんチューリップができました。とても楽しかったです。今回選ばれて、たくさんの人に見てもらえます。うれしいです。



5月号「犬と野菜」 山村悠斗

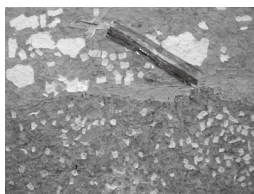
「犬と野菜」は、ずっと前から描いている得意な絵です。犬は耳をふさぐほど苦手ですが、印象深く心に残っているようです。野菜は悠斗の大好きな野菜で、よく生で食べたりしています。好きと嫌いがコラボした作品になっていて、私も大好きです。悠斗、これからも、たくさん絵を描いてね。（母）



6月「フラワーアレンジメント」 福岡祐司

この絵は、私が入院中に作業療法活動時間に描いたものです。退院後、家の自室にインテリアとして飾れるものをつくりたいと思ったのがキッカケです。生き物が外面に自らの誇るものを露出する姿に混じり、内面にある喜怒哀楽の感情を堪えながら「今」を生きている姿を表現した作品です。

次年も募集致します。どうぞ、奮ってご応募ください。（詳細は次頁をご覧ください）



7月号「ラベンダー畑～穏やかな虹と空と飛行機～」 ダチョウの卵 partⅡ

メンバー6人でたくさん話し合って、皆の考えを合体させてつくりました。和紙の色合いや虹をつくり出すことが難しかったけれど、皆でつくれてよかったです。



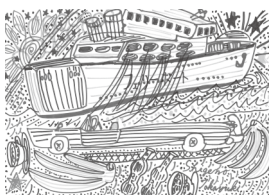
8月号「車いすバスケ」 神鷹吾典

小学校2年生から始めた車いすバスケも、もう2年目になりました。週1回の練習ですが、毎週大人に混じり練習しています。大人に混じっての練習は本当に刺激になり、楽しんで参加しています。将来の夢は日本代表！先輩に続くぞ！目指せ、パラリンピック！！



9月号「大海原を航く日本丸」 松本光治

日本丸は大型航海練習帆船。帆を張り荒天の中でさえもあえてエンジンを使わず、風と太陽と星の天則だけを頼りに航海実習する。脊髄損傷による肢体障害で不自由ながら、日本丸の勢いよく帆走する情景に活力を得、五感で描いた。日ごろお世話になる先生方へ感謝の日々です。



10月号「ゆめ」 しげのたかゆき

作者は長期入院をされている方です。社会とのかかわりが少ない環境ですが、表紙作品の応募にはとても前向きで、掲載が決まったときは嬉しそうにうなずいておられました。絵を描く作業は日々のいろいろな思いを表現し、好きなものの世界で過ごす楽しみにつながると感じます。（担当 OT：角田絃子）



11月号「海の中の人魚姫」 原口翔子

私が作品で重要と考えているのは、見る人によって感想が変わるということです。その変化によってたくさんの人の心を癒すことができたならいいと考えました。楽しさを求めたなら楽しげに、悲しみを求めたならそれに寄り添うようにできたら、そんな作品になってくれたらいいと思います。



12月号「武蔵」 内山絵琉

この作品は私が前に飼っていた「武蔵」という猫がモデルです。粘土で作品をつくるのは大変でした。壊れないように大切に持ち帰り、お母さんへの誕生日プレゼントにしました。お母さんは目を輝かせ、「すごいじゃん、ありがとう」と言ってくれました。私はとても幸せな気持ちになりました。